

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
・小学校も中学校も元氣大賞や文部科学大臣表彰を受賞するなど、良く頑張っている。目指すところも良くわかる。良くやってもらっている。	・小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。
・キャリア教育に様々な取り組み、子どもの生活の一部になったと思う。来年度に繋げて欲しい。	・全国調査質問紙の主體的・対話的で深い学びに関する項目の肯定的評価は5校とも良好である。	中学校区として統一した取組等	・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。
・各校とも、目標を立てて、地域と1つになって取り組まれている素晴らしい。	・体育委員会が企画・立案の体力づくりイベント等の実施により、「運動が好き」「進んで体力向上を図った」と答える子どもが増えている。		・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。
			・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々な取り組んでいく。

III 自 校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
自分の夢の実現に向けてたくましく生きていく生徒、次代の新市や日本、世界を担う生徒を育成して、新市町の皆さんから応援される学校づくりを推し進める。				
学校教育目標				
達成感・感動・郷土愛				
現 状	めざす子ども像			
＜生徒＞	1年	活動をふり返り、改善策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明することができる。
・ 令和5年度全国学力・学習状況調査の国語、数学、英語の平均正答率は、それぞれ、62%、40%、37%で、すべて市平均を下回っている。令和5年度学力の伸びを把握する調査では、学力を伸ばした生徒の割合は、2年国語と3年英語で市平均を上回っている。	2・3年	目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
・ 「自分の夢や進路目標の実現に向けて、日々の学習や部活動、行事などで、目標や計画を立て、取り組んでいる」生徒 78%、「目標の実現へに向けた計画や取組の達成状況を定期的に振り返り、改善策を考え、実行している」生徒 80%、「自分の考えを、相手や場に応じた言葉遣いや多様な表現方法を用いて、分かりやすく説明することができる」生徒 82%である。				
＜授業＞	研究	テーマ	ファシリテーター型の教師に挑戦し、「学びが面白い！」の更なる深化を目指す	
・ 「生徒主体の学びにむけた授業改善に挑戦している」教員 96%、「個人のアクションプランを意識して授業改善に努めている」教員 96%、「設定した『こだわりのある設問』を意識して授業を行っている」教員 94%、「ファシリテーター型の教師に挑戦している」教員 83%、「安心して発言できる雰囲気づくりを意識している」教員 100%である。		内容等	「温かい学級づくり」と「確かな教材研究のもと」、ファシリテーター型の教師となつて、対話を通して課題を解決する授業づくりを進める。 (教材との対話・他者との対話・自己との対話)	
・ 「教科の面白さを実感している」教員 80%、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている」教員 90%、「自分が知らないことを生徒と一緒に考える時間が楽しい」教員 90%である。	めざす授業の姿		・ 生徒が安心して発言できる、温かい雰囲気の授業 ・ 授業者が「引き出す」「広げる」「つなぐ」を大切にする授業 ・ 生徒が学び合い、探究し、学びを深めていく授業 キーワード“教科の本質”“ワクワク”“生徒にゆだねる”	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	子どもが学びに 向かう力、学び 続ける力、なり たい自分に向か う力を育成する。	★	継 続	目標達成のため の方法を考え、粘 り強く取り組む 子どもを育成する。 ＜チャレンジ& チェンジする力＞	・振り返りシート、キ ャリア・パスポート等 を活用して、目標設定 や改善策を考えさせる。 ・パフォーマンス課 題を設定し、ことばや 数、概念などをゆるや かに獲得させていく。	・「振り返りをもとに改善 策を考えている」生徒 80%以上 ・「ことばや数、概念を獲 得していくためのパフ ォーマンス課題を設定し ている」教員85%以上	・「振り返りをもと に改善策を考えて いる」生徒の割合は 80.7%。 ・「ことばや数、概 念を獲得していく ためのパフオーマ ンス課題を設定し ている」教員の割合 は72.7%。 □相互授業参観や 教科会等を活用し、 よりよい授業づく りに取り組んできた。	3	3	・キャリア・パス ポートや授業での 振り返り活動を中心 に、目標の達成 状況とプロセスを 評価し、学年取組・ 行事・授業の取組 を見直す。 ・評価配分表の検 討や教科会を中心 に、評価の見通し を持ちながら、学 習単元全体を見通 した授業づくり引 き続き行う。	・「振り返りをも とに改善策を考え ている」生徒の 割合は83.0%。 ・「ことばや数、 概念を獲得して いくためのパフ ォーマンス課題 を設定している」 教員の割合は 73.9%。 □一斉研修の取 組やアンケート 分析を踏まえ、学 年や教科での取 組を継続している。 ◎キャリア教育 を中心に据えた 取組を通して、な りたい自分に向 かう生徒が増加 傾向にある。	3	3	3	・アンケート結 果や生徒実態を 踏まえ、学年や教 科での取組改善 の内容を見直し、 精選すべきところ と新たにチャ レンジしていく ものを判別する。 ・キャリア・パス ポートの中身を より精選する。 ・引き続き、評価 配分表の検討や 教科会を中心に、 評価の見通しを 持つ。 ・「ことばや数、 概念を獲得する パフォーマンス 課題」の事例紹 介・講義を研修等 で実施していく。
				将来の夢や目標 の実現へ向けて、 自己理解を深め、 自分の思いや考 えを分かりやす く説明できる子 どもを育成する。 ＜自己理解力& 自己表現力＞	・地域や地元企業と 連携するなど、実社会 とのつながりを意識 した単元開発を行い、 学ぶことの意義を実 感させていく。 ・授業や行事等を中 心に、表現活動に挑戦 する機会を様々な設 定する。	・「日々の学習活動は、自 分の夢や目標・生き方を 考えることに繋がって いる」生徒75%以上 ・「自分の思いや考えを、 相手や場に応じて分か りやすく説明している」生 徒80%以上	・「日々の学習活動 は、自分の夢や目標・ 生き方を考えること に繋がっている」生 徒の割合は88.0%。 ・「自分の思いや考 えを、相手や場に応 じて分かりやすく説 明している」生徒の 割合は75.3%。 □出前授業を設定 し、学習内容と実 社会のつながりを 意識させる。 □コンクール応募 やグループ活動 で、表現する機会 を設ける。	3	3	・総合的な学習の 時間で企業との連 携を継続して行 う。また、キャリ ア・パスポートを 活用し、ふりかえ りの充実を図る。 ・相手や目的を意 識した表現活動を 授業の中で継続し て行う。	・「日々の学習活 動は、自分の夢や 目標・生き方を考 えることに繋が っている」生徒の 割合は85.7%。 ・「自分の思いや 考えを、相手や場 に応じて分かり やすく説明して いる」生徒の割合 は77.9%。 □出前授業が生 徒にとって日々 の学習と実社会 とのつながりを 実感させること ができた。 ◎第23回木下 夕爾賞学校賞を 受賞する生徒が 表現する場面を 意図的に設定し た。	4	3	4	・企業との連携 を継続して行い、 自己理解や学ぶ ことの意義につ なげる。 ・コンクール応 募や授業でのグ ループ活動は、継 続して行う。そ の中でも、「書く」 取組に重点を置 く。 ・引き続き、「相 手に伝わった」と 生徒が実感する 機会を増やすこ とで、自信につ なげていく。

	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で「考える、選ぶ、決める」力を育成する。	★	新規	教職員が生徒一人一人の学びの姿を大切にした教育活動を実践する。	- 生徒が方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりするような場面を設定する。 - 生徒及び保護者の状況を丁寧に把握及びチームで協議し必要な支援を行う。	「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒80%以上 - 新規長期欠席者の出現率を減少（現状3.7%）※新規長期欠席者…小学校1学年から現在までで初めて欠席が30日以上した生徒	「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒の割合は89.5% - 新規長期欠席者は1名（0.2%） □生徒が身に付いた力を確認するため、キャリア・パスポートを活用した三者懇談を実施した。 □毎週の経営委員会で生徒の状況を交流し、取組方針を決定した。	4	4	- 授業や行事、部活動等で課題解決の場や議論する場を設定する。キャリア・パスポートを活用した振り返りの場も設定する。 - 引き続き、生徒及び保護者の状況を丁寧に把握及びチームで協議し必要な支援を行う。	「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒の割合は89.1% - 新規長期欠席者は4名（0.8%） □授業や行事、部活動等及び校則などを生徒自身が決定し、主体的に責任を果たそうとする場面が増えた。 ◎生徒一人一人の強み、困り感などを丁寧に把握した教育活動を実践することにチャレンジしてきている。	4	4	4	- 引き続き、自己決定する場を増やし、キャリア・パスポート等を活用して振り返る場面を設定していく。 - 生徒及び保護者の状況を丁寧に把握するため、引き続き、学校全体で情報を共有し、取組を進めていく。
4	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境を充実する。		継続	教職員が実践力を高めるとともに、やりがいや充実感を持って教育活動を行う。	- 教職員が、自身の資質向上に係る目標・方策を設定し、取り組む。 - 相互参観授業により、互いの良さ認め合う。	「仕事にやりがいがある」教職員85%以上 「自分の仕事が認められている」教職員85%以上	「仕事にやりがいがある」教職員の割合は91.3%。 「自分の仕事が認められている」教職員の割合は87.0%。 □教職員が、自身の資質向上できるよう、日々の授業や行事等でチャレンジしてきている。	3	3	互いの強みを活かすことができる場について経営委員会で協議し、それらを踏まえ、企画立案・業務遂行できるよう組織的に取り組んでいく。	「仕事にやりがいがある」教職員の割合は91.3% 「自分の仕事が認められている」教職員の割合は91.3%。 □教職員が新たな取組にチャレンジする事にやりがいを感じてきている。 ◎教職員が元気に業務遂行できるよう、失敗を恐れず、トライ&エラーの気持ちをもって取組を進めてきている。	4	3	4	- 経営委員会での協議を通して、自身の組織的な取組を進めていく。 - 教職員が意欲的に取組を進めることができるよう、時間外勤務時間の縮減や業務の効率化を引き続き、進める。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。